

進捗状況の概要（1ページ以内）

●平成 29 年度事業進捗状況

(1) 学内の実施体制

これまで事業実施の中心組織であった「大学教育センター」を、平成 30 年度より「グローバル教育院」に発展的に組織変更を行う予定で設立の準備を行った。既存の「共通教育機構」、「国際センター」を「グローバル教養教育グループ」、「海外リエゾングループ」としていっしょに統合し、「アドミッション・専門基礎教育グループ」との連携がスムーズに、より効率的に可能な状況となった。

結果として IGS プログラム後期のキャリア教育科目を正課科目に昇格させ、高大連携教室の英語授業をより充実した内容にする体制が整備された。

また、全学組織の「入学者選抜制度検討委員会」を立ち上げ、平成 32 年度実施の新制度入試にむけて情報収集を開始した。具体的には、AO 入試の先行事例として、京都工芸繊維大学のダビンチ入試の情報交換会を開催し、農工大学で実施している SAIL 入試の制度改訂の参考とした。

(2) 中心となる取組（高大連携教室：IGS プログラム）

事業の中心となる取り組みである高大連携教室「IGS プログラム」も 4 年目の開講となり、参加者募集、実施が軌道にのってきた。地方 2 会場（浜松、広島）への参加は少なかったが、東京会場開催の 3 回にはのべ 97 名の高校生が参加、うち地方からの参加者が 23 人、全参加者中の 24% だった。

参加者の在籍高校の 1/3 は新規の参加で、プログラムが広く周知されていることを裏付けている。

平成 26、27 年度の「高大接続教室」参加者に追跡調査を実施した。回答を得た 37 人の全員が「課題研究など、先生に確認を受ければ自ら行動できるようになった」に肯定回答（「とてもそう思う」「まあそう思う」）であり、「理数系の学習や実験の時に、仮説をたて、論理的に考え、客観的に検証できるようになった」に対する肯定回答も 88.5% と、プログラムの教育効果の高さが評価された。

(3) 取組の成果

高大連携教室参加者の平成 29 年度入学への志願者は 26 名、合格者は 15 名、また平成 30 年度入学への志願者は 26 名で合格者は 7 名であった。母集団の中心となる平成 27 年度の参加者が 57 名、平成 28 年度が 111 名であることから、志願率は減少しているものの、それでも多くの志願者、合格者に結びついている。先の追跡調査の自由回答では、農工大への志望意識が強くなったことや、他大学進学者においても農学、工学分野への進路意識が明確になったなど、意識の醸成に大きな貢献をしていることが明らかになった。

(4) 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

高大連携教室の運営は、学内プログラム協力者の手配、プログラム参加高校生募集活動、プログラム実施、成果の WEB での発信などが一連のパッケージとしてマニュアルが整備できつつある。今後補助期間が終了した場合、運営に必要な予算を最小限に整理するメドがたち、学内予算での運営が可能な状況になってきている。

今後、連携教室参加者の追跡調査等を行い、プログラムの成果を明確にすることで、学内の認知を得て、継続的な実施が可能な態勢を整えて行く予定である。

(5) 学内外への波及効果

AP 事業テーマⅢ幹事校として、平成 29 年 5 月 29 日に「全国大学入学者選抜研究連絡協議会（富山国際会議場）」において採択校 8 大学のポスター発表を行った。全国から参加した国公立大学入学者試験関係者に広く周知し、個別ブースにおいて各大学の取り組みの質疑応答が行われた。

また、各大学の取り組み状況を 11 月発刊の「教育人会議（株式会社フロムページ）」に掲載し、全国の教育関係者 17,500 名に送付された。